

6年制卒病院薬剤師ワークショップ in かながわ

6年制卒病院薬剤師からのメッセージ
～病院実務実習への提案～
報告書

平成24年7月

公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会

目 次

	ページ
ワークショップのプログラム	・・・ 1
ワークショップ参加者とグループ分け	・・・ 2
ワークショップ開催の経緯 説明	・・・ 4
セッション報告	・・・ 7
第一部	
「実務実習を振り返って、よかったこと・役にたったこと」	・・・ 8
作業説明	・・・ 9
グループ報告	・・・ 12
第二部	
「実務実習を振り返って、やっておきたかったこと」	・・・ 20
作業説明	・・・ 21
グループ報告	・・・ 22
第三部	
「今後の病院実務実習へ提案したいこと」	・・・ 32
作業説明	・・・ 33
グループ報告	・・・ 35
参加者印象記	・・・ 44

6年制卒病院薬剤師ワークショップ in かながわ
「6年制卒病院薬剤師からのメッセージ～病院実務実習への提案～」

主催；(社)神奈川県病院薬剤師会
日時；平成24年6月17日(日曜日)9:50～17:00
場所；横浜市立大学附属市民総合医療センター
参加者；24名(15施設)
グループ；1P3S(1グループ8名)

【プログラム】

(P；全体討議, S；小グループ討議)

～ 9:50		受付(場所：P会場入り口)	
9:50～ 10:00	P	開会式 (進行；尾鳥)	10分
10:00～ 10:15	P	趣旨説明および作業説明	10分
第一部 実務実習を振り返って、よかったこと・役にたったこと			
10:15～ 11:15	S	SGD(模造紙)	60分
11:15～ 11:35	P	発表(3分), 全体討論(10分)	20分
11:35～ 12:15	S	昼食(各Sでお弁当)	40分
第二部 実務実習を振り返って、やっておきたかったこと			
12:15～ 12:20	P	第二部 作業説明	5分
12:20～ 13:20	S	SGD(模造紙)	60分
13:20～ 13:40	P	発表(3分), 全体討論(10分)	20分
第三部 今後の病院実務実習に提案したいこと			
13:40～ 13:50	P	第三部 作業説明	10分
13:50～ 14:50	S	SGD(パワーポイント)	60分
14:50～ 15:00		休憩	10分
15:00～ 15:40	P	発表(5分), 質疑(3分), 全体討論(15分)	40分
15:40～ 15:50	P	今後の作業説明	10分
15:50～ 16:50	S	SGD；シンポジウムに向けた準備	60分
16:50～ 17:00	P	写真撮影	
17:00	P	閉会の挨拶	

【ワークショップ参加者とグループ分け】

【参加者】

	氏名	所属施設
Aグループ	1 東 信太朗	北里大学病院
	2 石毛聡子	菊名記念病院
	3 北澤紀幸	横浜新緑総合病院
	4 谷川大夢	東海大学医学部付属病院
	5 内藤桂子	大船中央病院
	6 藤間友梨	東戸塚記念病院
	7 前田悠佑	横浜旭中央総合病院
	8 横山咲野	横浜新都市脳神経外科病院
Bグループ	1 内山一成	聖マリアンナ医科大学病院
	2 小川隆弘	北里大学病院
	3 金子明日香	江田記念病院
	4 武 宏樹	菊名記念病院
	5 森川佳奈	横浜市立大学附属 市民総合医療センター
	6 安田朋奈	横浜新緑総合病院
	7 山崎麻里	鶴川サナトリウム病院
	8 油井孝治	横浜市立大学附属病院
Cグループ	1 池田裕太郎	横浜旭中央総合病院
	2 石川文子	鶴川サナトリウム病院
	3 奥野由依	東海大学医学部付属病院
	4 白井友基	菊名記念病院
	5 堀 絵里子	大倉山記念病院
	6 眞下智尋	新戸塚病院
	7 三浦 輝	北里大学病院
	8 山口晃司	横浜市立大学附属 市民総合医療センター

【タスクフォース】

氏名	所属施設
中村明弘	昭和大学薬学部
橋本真也	横浜市立大学附属 市民総合医療センター
竹ノ内敏孝	昭和大学藤が丘病院
岩城康子	横浜新緑総合病院
尾鳥勝也	北里大学病院
門田佳子	慶應義塾大学薬学部
駒井元彦	藤沢市民病院
佐々木琢也	横浜市立大学附属 市民総合医療センター
奈良部修弘	菊名記念病院
平綿洋子	東海大学医学部付属病院
横山美恵子	聖マリアンナ医科大学病院



ワークショップ開催の経緯

(社)神奈川県病院薬剤師会
6年制卒病院薬剤師ワークショップ in かながわ

ワークショップ開催の経緯

日本病院薬剤師会関東ブロック第42回学術大会
シンポジウム オーガナイザー 中村明弘(昭和大学薬学部教授)
尾島勝也(神奈川県病院薬剤師会)

平成24年6月17日(日)

病院薬剤師を取り巻く環境

➤ 薬剤師の人員配置基準 (医療法施行規則において規定)

- 一般病院：外来は処方せん75枚に1人
入院は70名に1人
- 特定機能病院：入院患者30名に1人

↳ 適合率:平成21年度 94.4%

➤ 病院薬剤師業務の変遷

- 外来患者中心から入院患者中心へ
- 病棟に薬剤師が常駐して薬全体に関与することが医師など医療人および患者からも評価される

➤ 安心と希望の医療確保ビジョン(平成20年厚労省より)

- 医師と薬剤師など、職種間の協働・チーム医療の充実
- 「治す医療」から「治し支える医療」へ

病院薬剤師を取り巻く環境

➤ チーム医療の推進に関する検討会報告書(平成22年厚労省より)

- チーム医療において、薬剤師の専門家である薬剤師が主体的に薬物療法に参加することが、医療安全の確保の観点から非常に有益である
- 医療現場におけるニーズも踏まえながら、さらなる業務範囲・役割の拡大を進める

➤ 平成24年度診療報酬改定

- 病棟薬剤業務実施加算の新設

➤ 6年制薬学教育における実務実習体制の確保

- 参加型実務実習の適正な実施を通じて、医療人として相応しい態度を習得するとともに、医療人として実践的能力をもつ薬剤師を養成する
- 実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠した実習の実施
- 良き後輩を育てる

病院における長期実務実習に対する基本的な考え方

平成22年3月
(社)日本病院薬剤師会

- 病院における長期実務実習において、実習生の受け入れは薬学教育協議会地区調整機構を介した受入を原則とする。
- 長期実務実習は、医療現場における薬剤師の役割を体得するとともに、臨床に係る実践的能力を培うために必須のものであるので、実習内容の均質化と参加型の質の高い実習を行うことが基本となる。
- 各病院における実務実習は、実務実習モデル・コアカリキュラムに対応して行うことに加えて、それぞれの病院における特徴を活かした取り組みをすることも必要である。

病院における長期実務実習に対する基本的な考え方

平成22年3月
(社)日本病院薬剤師会

- また病院には特定機能病院、一般病院、精神科病院、療養型病院など様々な機能の病院があり、薬学生がそれらの病院で実習を経験できるよう「グループ実習」を推奨する。
- また、病院実習の地域偏在を少なくするため、実習生が自分の故郷に帰郷して実習を行う「ふるさと実習」を推進する。
- なお、医療が高度・複雑化していくなかで個々の患者に対する様々な職種によるチーム医療のみでなく、栄養サポート、感染制御、緩和ケア、褥瘡対策など病院全体に係るチーム医療における薬剤師の役割を体験させることも、今後推進していくこととする。

実務実習の振り返り



6年制薬学教育の振り返り



本日のテーマ

6年制卒の病院薬剤師からのメッセージ
～ 病院実務実習への提案 ～

今日は、6年制を卒業し、神奈川県下の病院に
勤務する病院薬剤師が集まり、
5年次に行った実務実習を振り返って、
これからの病院実務実習について存分に情報や
意見を交換しよう！

セッション報告

第一部

**実務実習を振り返って、
よかったこと・役にたったこと**

(社)神奈川県病院薬剤師会
6年制卒病院薬剤師ワークショップ in かながわ

第一部

病院に勤務して11週間が経過しました。
改めて5年次の実務実習を振り返って、
よかったこと、役にたったこと

小グループ討論を通して、皆さんの思いを共有・交換しよう

小グループ討論

四役を決める



KJ法

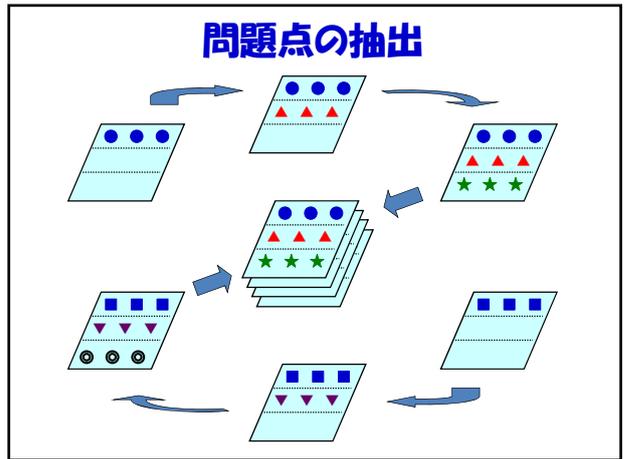
情報を徹底して収集

↓

語るところを聞く

↓

情報の整理



記載上の注意点

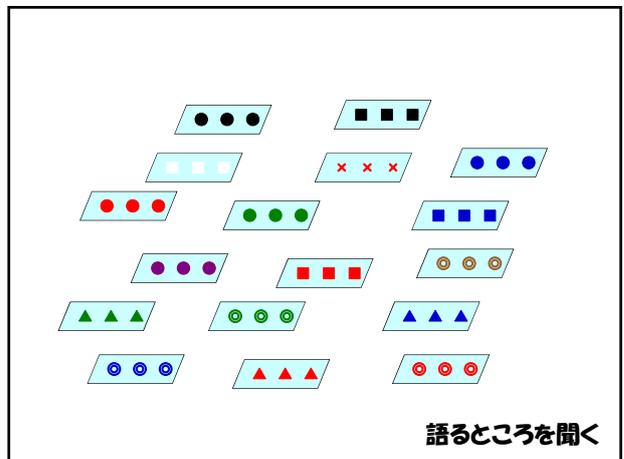
大きな文字で

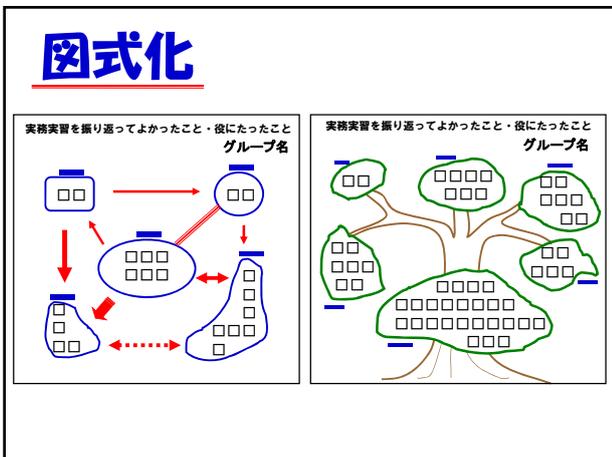
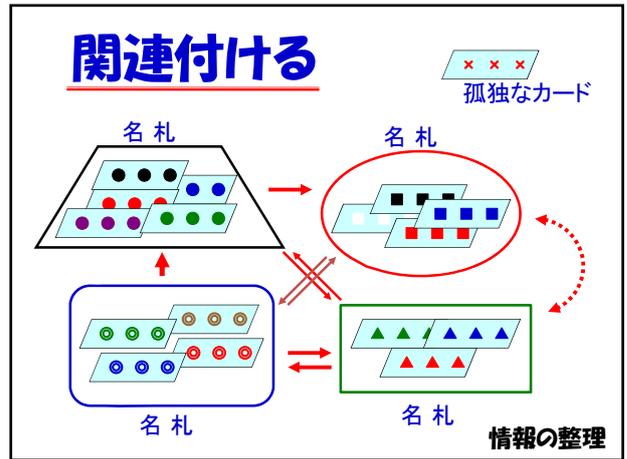
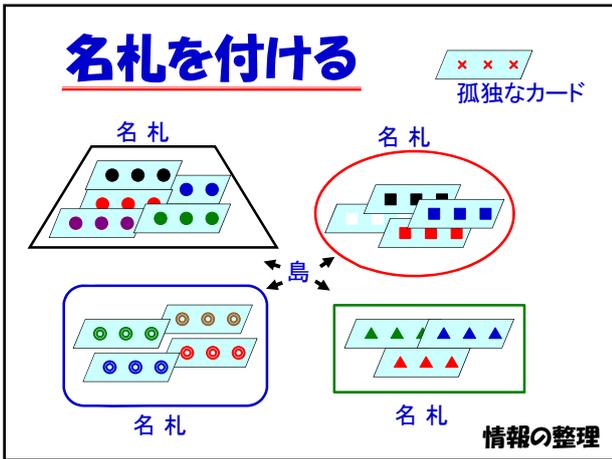
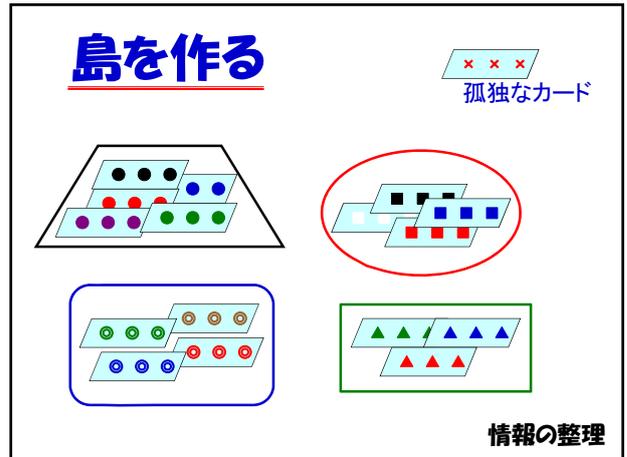
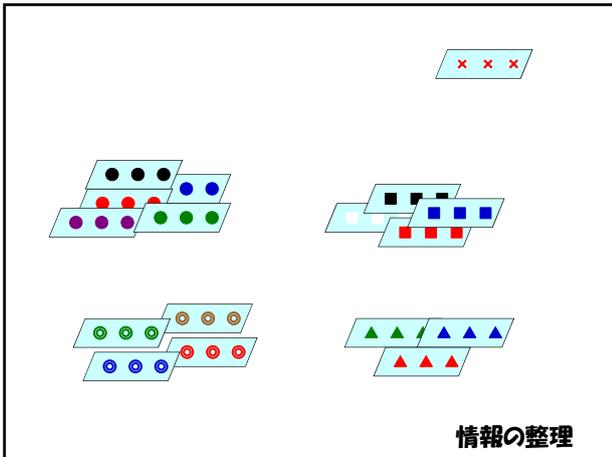
明瞭に

誰が書いたか分かるように。イニシャルetc.

前の人の意見を参考にしても、しなくてもよい

一人、5~6つ位の意見を書く





これからの作業

1. 自己紹介（1人30秒程度）
病院薬剤師になった理由 など
2. 病院に11週間勤務してみて、
「**実務実習を振り返って、
よかったこと・役にたったこと**」

**KJ法で情報を整理して発表する。
(模造紙で発表)**

作業時間 60分

(集合時間 11:15)

発表 3分

総合討論 10分

A → B → C

Aグループ

第一部：実務実習を振り返って、よかったこと・役にたったこと

<議論の経過>

KJ法に従いテーマについての各々が意見を出し合った。

↓

出た意見を大グループに分け、大グループの中でも、さらに似通った意見を分類した。

↓

大グループを実習時～現在へ、時系列に並べた。

↓

結果

大学での授業・実務実習→樹の根本・幹

現在感じる事・将来→樹の上部・葉

として図式化した。

<フロダクト>

島のタイトルとその中のカード内容を記載する。

【将来像】

自分の将来

- 自分の将来なりたい薬剤師像を作りやすくなった
- 先輩薬剤師さんの姿から自分の将来について見えてきた
- 実際の働いた時のことが想像できたこと

病院薬剤師の将来

- 今後病院薬剤師が進むべき方向性が見えた
- 薬剤部で働く方々を見れたこと
- 長期間の実習で先に社会人を経験できて就職先を選ぶのによかった

【コミュニケーション】

对患者

- 服薬指導する際、業務に入りやすかった
- 先輩薬剤師から服薬指導の仕方を数多く学べた
- 患者と接することで服薬指導に必要なことを理解できた
- 患者様と会話することに抵抗を感じなくなった

对先輩

- 先輩方とのコミュニケーション、言葉使いなど

対他職種

- 他職種と関わることの重要性を学べたこと
- チーム医療の意味を体験することで理解できた
- チーム医療の一部(病棟)を見れたこと

【個別業務の理解】

- 混注業務での手技が実習で経験していたためスムーズだった
- 調剤等の基本的な手技が身に付いたこと
- 分包機などの使い方が覚えやすかった
- 本来薬剤師が行う業務(ミキシング)を知れた
- 医薬品の供給、管理システムを見れたこと

【病院薬剤師の業務全体の理解】

- 業務全体が大まかに把握できたこと
- 実際の臨床現場における薬剤師の業務を見ることができた
- 病院薬剤師の内容について
- 薬剤部各部署の繋がりが見られたこと
- 実習先と今の連絡先を比較することができた
- 病院の採用薬以外の薬の知識を得られた

【実習で学んで役立ったこと】

- 薬剤(病態)についての知識がすこしではあるが実習前よりも身に付いた
- 薬の一般名と商品名がつながるようになった
- 患者さんの病態や治療を身近に感じることができた

【実習で感じた大学の授業の重要性】

- 大学での実務実習の経験の重要性について理解できた
- OSCE での経験を活かすことが出来て、OSCE の必要性を感じる事が出来た
- (残りの学生生活で何を学ぶべきかを整理できた)

【大学で学んだことが役立った】

- 大学の薬の知識について再確認することが出来た
- 大学で学んだことがどう活かされるか感じることが出来た

【その他】

- 病院と薬局での薬剤師の役割の違いが分かった
- 多施設で実習できたこと(リハビリテーション施設等)
- それぞれ違うであろう病院のシステムを体験できたこと(電子カルテ、オーダーリング等)
- 卸の見学もできたので供給について学ぶことが出来た

Bグループ

第一部：実務実習を振り返って、良かったこと・役にたったこと

<議論の経過>

まずはバラバラのカードの中の“チーム医療”や“病棟”、“患者さん”、“調剤業務”といったワードをもとに単純な組分けをしていった。そして同じ“患者さん”でも、たくさん患者さんとふれ合い、接することによりその思いを知り考えることができた、というものや、その上でひとりひとりに合った薬物治療を考えることができた、というものなど、ひとつひとつのカードの情報（思い）の整理をしていき、大きく分けて7つの島に分けることができた。

さらにそれぞれの関連性を考えたときに、全ての中心、核となるものは、医療の中心である患者さんであり、患者さんと接し、理解することが、あらゆる業務をこなしていく上でとても重要であると考えたことから「患者さん思考が身についた」という題を今回のテーマの中心にすることと決めた。

そして「患者さん思考が身に付いた」ことを中心に、「業務を理解することができた」ことは患者さんあってのことであり、またその理解を患者さんに適応するため両矢印で表現した。「病院特有の知識が習得できた」ことに関しても患者さんの病態を深く知るために知識を得、それを患者さんに適応するということから両矢印で表現した。次にチーム医療に参加し、他職種の方の仕事を知ることで、より薬剤師としての患者さんに対する役割などを理解することができた、ということから「チーム医療に参加できた」ことから「患者さん思考が身に付いた」に矢印を引いた。また、病棟に行くことにより、医師や看護師など他職種の方と情報の共有ができたということから、「病棟経験ができた」ことと「チーム医療に参加できた」ことに両矢印を引いた。さらに「患者さん思考が身に付いた」ことから、目の前にいる患者さんにとってより良い薬物療法を考えることを実践できたということから、「個々の薬物療法を考えた」に向かって太い矢印を引き、それを実践するために情報検索をする機会が多く与えられたため、「患者さん思考が身に付いた」→「情報検索ができるようになった」→「個々の薬物療法を考えた」と表現した。そして、患者さんあっての薬剤業務であり、その業務は患者さんに適応するためのものであるため、「患者さん思考が身に付いた」ことと「業務を理解することができた」ことの間に両矢印を引いた。そして「業務を理解することができた」ことで、実際に今現在病院で働くにあたって、業務の流れなど2カ月半の実習を通してわかっていることも多いということから、先輩方が教えやすいという単独の島に向かって矢印を引いて表現した。

以上のように私たちBグループは“実務実習を振り返って良かったこと、役に立ったこと”を「患者さん思考が身に付いたこと」を中心にまとめたが、それぞれの経験を語るにあたり、私たちが2カ月半の実務実習で経験したことは、患者さんにとってより良

い医療を提供するため、という思いにつながっていることを改めて実感することができた。

<フロダクト>

島のタイトルとその中のカード内容を記載する。

【業務を理解することができた】

- 調剤の流れを理解することができたこと。
- 病院薬剤師の具体的業務が理解できたこと。
- 処方監査のポイントを知ることができたこと。
- カルテの見方を理解できたこと。
- 先輩薬剤師からの質問の投げかけがあったこと。
- 調剤時の注意が身に付いたこと。
- 抗ガン剤のミキシングの手技を理解できたこと。
- 病院業務を経験しているの、就職して教わったとき理解しやすいこと。

⇒ 先輩方が教えやすい

【情報検索ができるようになった】

- 医薬品情報の検索プロセスを理解できたこと。
- 疑問点に対してどのように対処したら良いか考えることができた。

【病院特有の知識（応用的な知識）が習得できた】

- 注射箋について学べたこと。
- 特殊な薬の扱い方を知ることができたこと。
- 疾患について臨床的な視点で学ぶことができた。
- Drの勉強会などで、病態の詳しい知識を得られたこと。

【患者さん思考が身についた】

- 患者さんの思いを体感できたこと。
- 入院から退院まで通して患者さんを見られたこと。
- 患者さんの入院から退院までを経時的に見られたこと。

【個々の薬物療法を考えることができた】

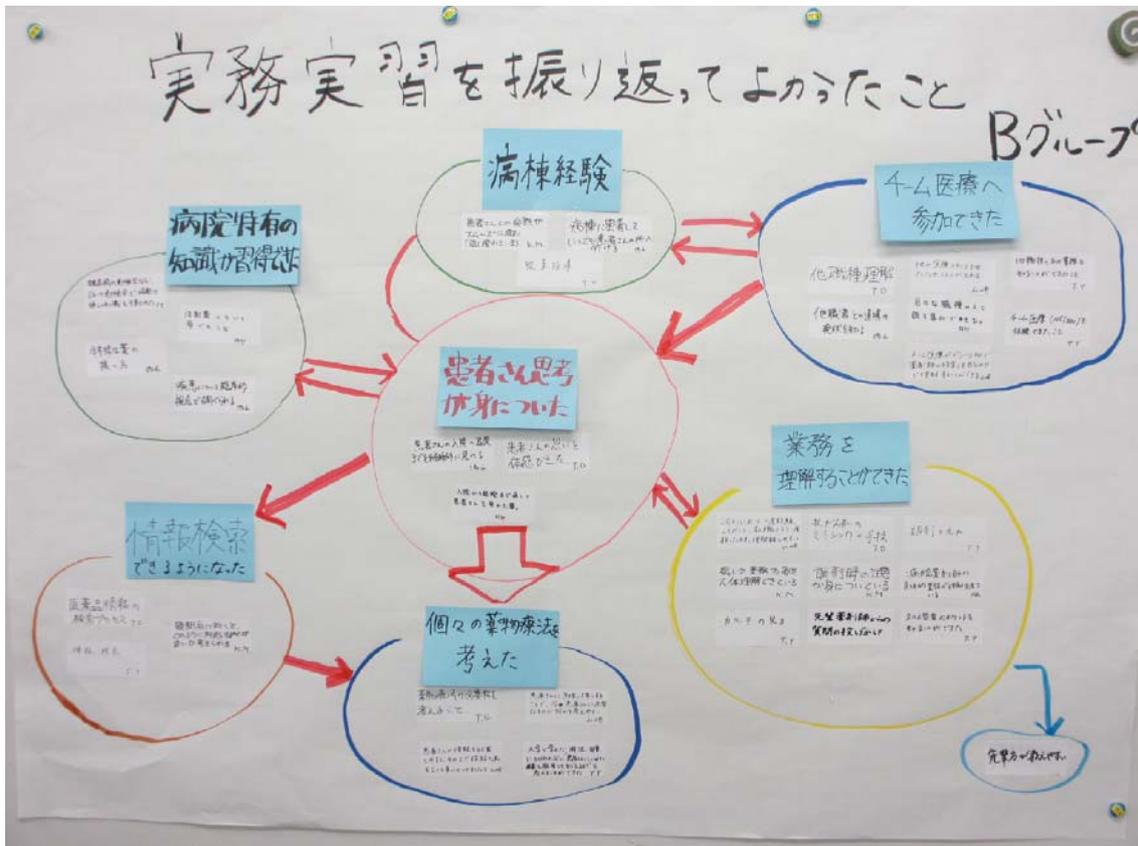
- 薬物療法の必要性を考えることができたこと。
- 患者さんに直接接することで、今患者さんに必要なものが何かを考えやすかったこと。
- 大学で学んだ用法・用量にとらわれない“いかに患者さんに薬を服用してもらえるか”を考えることができたこと。
- 患者さんの情報を収集しやすく、その上で投与計画を立てることがやりやすかったこと。

【病棟経験ができた】

- 服薬指導ができたこと。
- 病棟に密着していつでも患者さんのところへ行けたこと。
- 患者さんとの会話がスムーズに進むこと（実習により話しなれている）。

【チーム医療に参加できた】

- 他職種の方の業務を理解できたこと。
- 他の医療スタッフとコミュニケーションが取れたこと。
- NSTなどのチーム医療に参加できたこと。
- チーム医療の中での薬剤師の役割を知ることができたこと。
- 他職種との連携の現状を知ることができたこと。



Cグループ

第一部：実務実習を振り返って、良かったこと・役にたったこと

<議論の経過>

KJ法により、意見をまとめて情報を整理した結果、私たちのグループでは大きく4つの島に意見を分けることができました。話し合いの結果、①の島を中心として、病院薬剤師の業務を体験できたことにより、他の②③④のそれぞれの意見につながると考えました。また、②の勉強の大切さを学んだことと③の病院薬剤師になろうと思ったきっかけになったことが、④の就職した今役立つこととつながっていると考えました。

<プロダクト>

島のタイトルとその中のカード内容を記載する。

【① 病院薬剤師の業務が体験できた】

- 座学で学んだことを実習の場で実際に経験できた
- 色々なタイプの病院を見ることができた
- 学校では薬を見ていたが実習では人を見ることができた
- 服薬指導ができた
- 病院らしい患者さんとの接し方を学べた

【② 勉強の大切さを学んだ】

- 薬についてもっと勉強したいと意欲が出た
- 大学で学んだことが役に立った、同時に実務に必要な知識の違いも分かった
- 国家試験に役立った

【③ 病院薬剤師になろうと思ったきっかけ】

- 将来何をしたいのか考えることができた
- 自分が働く姿が想像できた
- 尊敬できる先生に出会えた
- 薬剤師の仕事のやりがいが見つかった
- 就職の選択につながった

【④ 就職した今役立つこと】

- 業務の内容や流れが把握しやすい
- ほかの医療スタッフとコミュニケーションが取れる
- 時間厳守の重要性を学んだ

実務実習を振り返って よかったこと、役に立ったこと

Cグループ

勉強の大切さを知った

大学の勉強が大切だと気づいた。勉強がなかったら、今のところまで来なかった。勉強がなかったら、今のところまで来なかった。勉強がなかったら、今のところまで来なかった。

病院薬剤師になろうと思ったきっかけ

病院の仕事をしたいと思った。薬剤師になりたいと思った。薬剤師になりたいと思った。薬剤師になりたいと思った。

病院薬剤師の業務を体験できた

薬学で学んだことを、実習の中で体験することができた。薬学で学んだことを、実習の中で体験することができた。薬学で学んだことを、実習の中で体験することができた。

就職した今役立つこと

毎朝決まった時間、起きる習慣が役に立っている。毎朝決まった時間、起きる習慣が役に立っている。毎朝決まった時間、起きる習慣が役に立っている。

第二部

**実務実習を振り返って、
やっておきたかったこと**

第二部

第一部では、
病院に勤務して11週間が経ち、改めて5年次
実務実習を振り返って、よかったこと・役にたっ
たこと」をKJ法で整理しました

グループ討論の中で

病院実習・薬局実習で学んだことが、今の日常
業務の中で活かしている(活かしてくる)ことが確認
できました。

しかし、その一方で、

病院に勤務してみて、改めて5年次実務実習を
振り返ってみると、

「やっておきたかったこと」

というものもあるのではないのでしょうか？

病院に勤務して11週間が経ち、改めて
5年次実務実習を振り返って、
「やっておきたかったこと」



第一部と同じように、

KJ法でその内容を整理してみよう！
(模造紙で発表)

第一部のプロダクトの「鳥」との関連も
考えてみるとよいかも...

作業時間 60分

(集合時間 13:20)

発表 3分

総合討論 10分

B → C → A

Aグループ

第二部：実務実習を振り返って、やっておきたかったこと

<議論の経過>

私たち A グループでは、第二部 病院に勤務して 11 週間が経ち、改めて 5 年次実務実習を振り返って、「やっておきたかったこと」という議題について、SGD(スモールグループディスカッション)を行いました。SGD では、まず始めに司会係、発表係、記録係、報告書係の四役を決めて、KJ 法を用いて討論を行っていきました。KJ 法を用いて出た意見は同様の内容ごとに 3 つに分類し、それを大きな島として島ごとに名札を付けていきました。島の中でもさらに細かく分類したものにも名札を付けていきました。

私たちのグループでは院内の特に病棟での活動に対する意見が多く、患者さんともっと沢山関わっていきたくかった、カンファレンスに参加したかった等、患者さんや他の職種とのコミュニケーションをもっと取りたくかったという意見が多く出ました。これは第一部で意見として挙げた、『コミュニケーション』に関係するものであり、第二部においても『コミュニケーション』に注目して討論を展開していきました。院内でのコミュニケーションだけでなく、実習後の薬剤部の方々や MR との関わりも重要視し、実習で関わった人たちとさらに関係を発展させていきたいという意見が挙げられました。薬剤部内では院内製剤の製造や DI 室の業務をもっと知りたくかった等の意見が挙げられました。これらの意見は病院で経験することができた人、できなくて意見として挙げた人の差がありました。これは、病院や薬剤部内の仕組みの違いによる経験の有無がこのような意見として挙げられたと考えられました。

また、薬物投与設計や副作用モニタリングについても実習でやっておきたかったという意見がでました。学校の授業では経験することができないことだからこそ、実際の症例をもとに薬物の投与量や副作用の発現を検討してみるという実習を行ってみたかったと思いました。

第二部の議題について A グループでは KJ 法を用いた結果、40 個の意見を出すことができました。討論をして行く中で時間が少なく、意見を深めていく事ができないものもあり心残りの部分もありましたが、各々の大学での実習や病院実習で得た知識・経験が異なる同期の意見に触れることができ、大変、有意義な時間を過ごさせていただきました。

<フロダクト>

島のタイトルとその中のカード内容を記載する。

【薬剤部内でのこと】

- DI：DI室の多岐にわたる業務をもっと知りたかった
- 院内製剤：調製、製造をもっと行いたかった
- 処方鑑査：処方鑑査の方法、投与量の妥当性などの処方解析
- TDM：薬物投与設計についてもっと考えたかった
- その他：薬剤師やMRの方々ともっと話や質問をしていきたかった、抗がん剤のミキシング、治験薬の管理、注射薬等にもっと触れてみたかった等

【院内でのこと(薬剤部以外)】

- 病棟活動：病棟・病室の様子をもっと見たかった、病棟での活動をもっと見たかった
- チーム医療：カンファレンスで発言したかった、ICT、NSTなど様々なチームの見学
- 他部署：他部署(手術室など)の見学、Dr、Nsとコミュニケーションを取りたかった等
- 服薬指導：もっと病棟での服薬指導を経験したかった、患者さんともっとお話をしたかった等
- 症例検討：様々な病態を抱えた患者さん達と接したかった、一人の患者を入院～退院まで追ってみたかった、副作用モニタリング等

【院外でのこと】

- 実習後も薬剤部の方々との関わりを保つ
- 色々な病院で実習を行ってみたかった、一つではなく他の病院でも学びたかった

実務実習を振り返って グループA やっておきたかったこと

コミュニケーション

院外でのこと

実習先と関わり
あり (薬剤師さん)
pharm

処方箋の管理
について
PT

ほか、他の病院
でも学んだ

院内でのこと (薬剤部以外)

病棟活動

病棟の様子、薬の
様子などいろいろ
上り下り PT/M

病棟での活動
も上り下りした

チーム 医療

カドケルンで
夜間PT/M

ICU、NSTなどの
見学 PT/M

病棟チームでの
活動 PT

他部署

他の部署の患者さん
と関わり PT/M

手術室の患者さん
と関わり PT

オペ室見学
PT

他部署の関わり
もいろいろ知れた
PT/M

D. 薬剤師としての
役割 PT/M

他部署との連携
について PT

他部署の見学
(PT/M) PT/M

服薬指導

患者さんごとの
服薬指導 PT

病棟での患者さん
と関わり PT/M

チーム医療での
服薬指導の重要性
について

患者さんへの
説明 PT/M

服薬指導の
重要性 PT/M

服薬指導の
重要性 PT/M

症例検討

症例の検討
PT

1つの症例について
チームで検討 PT/M

症例検討の
重要性 PT/M

1つの症例について
チームで検討 PT/M

症例検討の
重要性 PT/M

症例検討の
重要性 PT/M

薬剤部内 でのこと

DI

DI室の業務に
関わり PT/M

薬物相互作用に
関わり PT/M

TDM

薬物濃度の測定
について PT/M

処方鑑査

処方箋の
内容について PT/M

処方箋の
内容について PT/M

院内製剤

院内製剤の
業務について PT/M

院内製剤の
業務について PT/M

その他

院内での
業務について PT/M

院内での
業務について PT/M

院内での
業務について PT/M

Bグループ

第二部：実務実習を振り返って、やっておきたかったこと

<議論の経過>

私達のグループでは、実習でさらにやりたかった事として、以下の様に服薬指導を始め、混注、疑義照会などの具体的業務がいくつか挙がりました。特に服薬指導では、数えられる程度しか実践していない人と、8週間で様々な患者さんに服薬指導を経験した人と、同じ実習期間内でも経験に差が生じているのが目立つ気がしました。

混注業務においては、抗がん剤のミキシングを体験した人は少なく、危険を伴う作業のためか、水を使ったアンプル・バイアルでの練習であったり、実際薬剤師が混注をしている所の見学だけで、実習は修了した傾向があり、実際に体験したかったと感じている人が多い様でした。

TDMでは、一人の患者さんを時系列で追って観察したいという意見がありました。D I 業務と書いた人は、大学の先生からのD I ニュースを作ってみるという課題をこなしたのみだったから、実際に病院薬剤師とD I 業務を通して関わることが出来ずにいたという意見でした。疑義照会も、実際に実習生が電話をかけて行うことが実現できずに実習を終えた人もいたので、心残りだった様です。

治験薬についても、概要を説明されただけだったので、CRCの実際の業務も見てみたいとのことでした。

チーム医療としては、他職種の人ともっとお話がしたかった、もっと医師や患者さんとお話がしたかった、それができていたらもっと自分のモチベーションのアップにもつながっていたのではという考え方もありました。

最後に、私達の一番主張する「叫び」の枠内ですが、グループ内の一人は、実習中に精神科の単科だけの病院実習しか経験が出来なかったので、もっと他科もみたかったという意見がありました。また、自分は急性期病院で実習をしたので、慢性期や回復期の病院がどんな風になっているのか見学してみたいという意見が挙がりました。講義が多く実践をもっとしたかったという意見も印象的で、対照的に実務が多かったので講義がもっと欲しかったという意見もあり、こちらも施設により偏りが有る様です。最終的に、実習期間が短く全てを網羅出来なかったので、実習期間を延長してほしいという意見に至りました。ただ、個人の進路等による理由や、卒論や就職活動等、実習以外の学業や活動との兼ね合いもあるため、6年次に食い込む実習等は任意制度をとるべきだとの具体的な提案も出ました。

<フロダクト>

島のタイトルとその中のカード内容を記載する。

* **叫び** (私達が一番主張したかった事)

- 講義
 - 講義がもっと欲しかった。
 - 講義が多かったのもっと業務に携わりたかった。
- カンファレンスに参加したい
 - カンファレンスへの参加。
 - 症例検討会の参加・見学。
- 他施設での実習がしたかった
 - 急性期の病院での業務（単科での実習だったため）。
 - 他のタイプの病院（急性・慢性など）の見学。
- 実習期間の延長

【TDM】

- TDMの実践。
- もっと一人の患者さんの状態を追って行きたかった。

【D I】

- 実際現場でD I業務をどのようにしているか。

【混注】

- 混注業務。
- アンプル・バイアル操作の練習・実践。
- 抗がん剤のミキシング。
- 抗がん剤混注を体験したい。
- 注射剤の知識や経験をもっと得たかった。

【治験】

- 治験薬についての業務（概要しか分からなかった）。

【疑義照会】

- 1 回もやらなかったのが疑義照会をしたかった。
- 疑義照会を 1 回はやらせてもらいたかった。

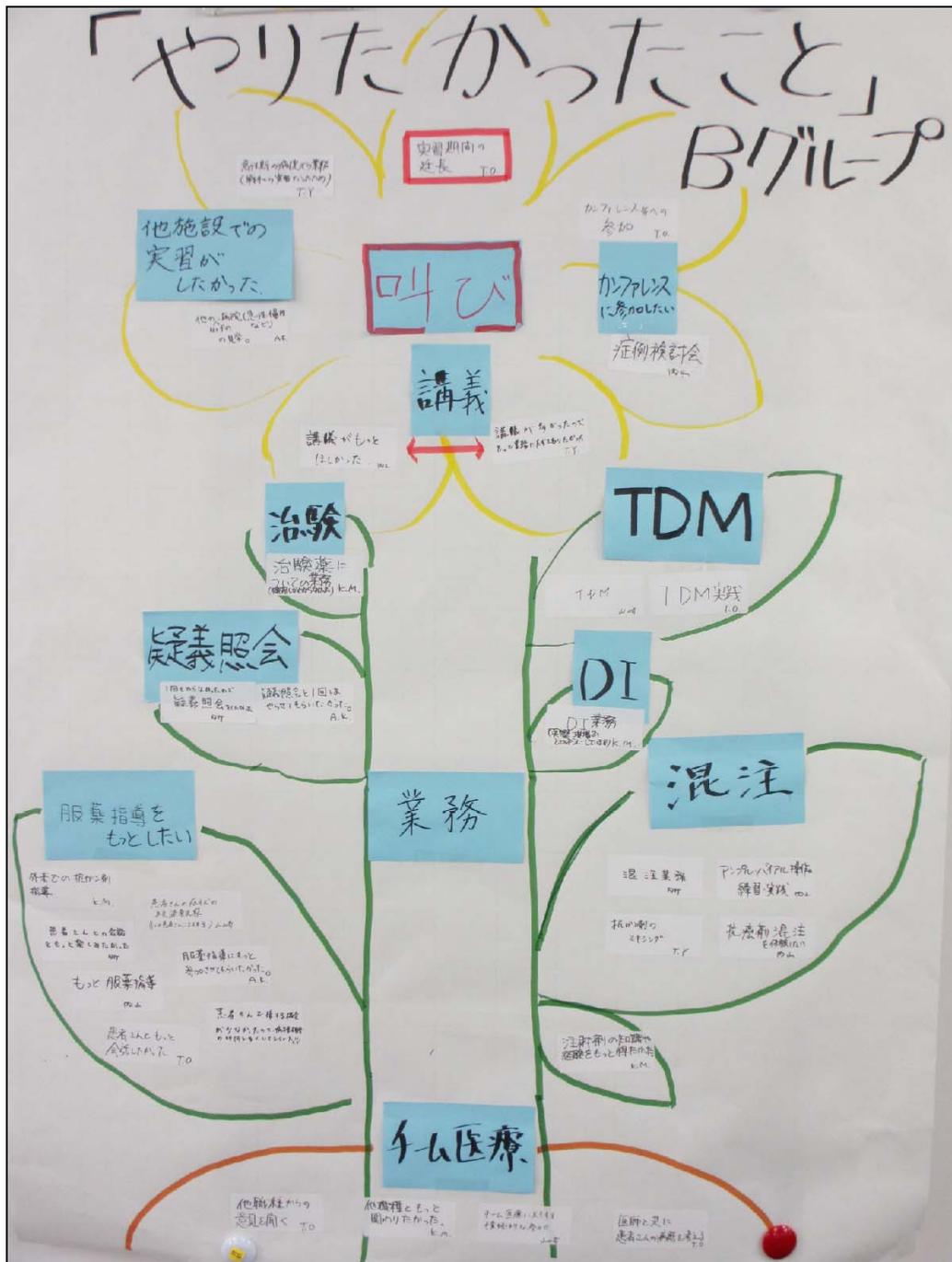
【服薬指導をもっとしたい】

- 外来での抗がん剤指導をもっとしたい。
- 患者さんの症状の経過観察（一人の患者さんに対する）。
- 患者さんとの会話をもっと楽しみたかった。
- 服薬指導にもっと参加させてもらいたかった。
- もっと服薬指導がしたい。

- 患者さんと接する機会が少なかったので、病棟研修の時間が多くしてもらいたかった。
- 患者さんともっと会話をしたかった。

【チーム医療】

- 多職種からの意見を聞く。
- 他職種ともっと関わりたかった。
- チーム医療に対する積極的な参加。
- 医師と共に患者さんの病態を考えたかった。



Cグループ

第二部：実務実習を振り返って、やっておきたかったこと

<議論の経過>

KJ法により、意見をまとめて情報を整理した結果、私たちCグループでは大きく以下のような島に意見を分けることができました。

【自主学习】

現在、病院薬剤師として働いてみて、実習中にもっと薬について勉強しておけばよかったという意見が出た。また、実習中に患者さんに服薬指導する上で覚えた知識は記憶に残りやすかったとの意見もあり、実習を通して得た知識はとても貴重なもので、もっと自ら実習中も積極的に学んでいれば今にいろいろ活かせたのではないかという結論に至った。

【薬剤師の現実】

病院で働く上で、実習先で福利厚生の話などを遠慮せずに聞いておけば、もっと就職活動がスムーズに行えたのではないかという意見があった。実際、就活生としては聞きづらい面もあったのは事実なので、実習生という立場をフルに活用すれば、職場選びに有意義な情報になっただろうと感じた。

【他職種間のコミュニケーションについて】

「実習中にもっといろいろな人と関わっておけばよかった」「薬剤師の人がどういった形で他のコメディカルの人とコミュニケーションしているのか見ておけばよかった」などの意見があった。実習は薬剤部を中心に行われるため、どうしても他職種にまで自分たちの興味を伸ばすことができなかつたのではという意見もあり、実習内容としてもっと他職種の業務を理解できるようなSBOがあってもよかったという意見も出た。

【業務内容について】

まずミキシング業務をやりたかったという意見が多かった。実習受け入れを行っている施設の中でも実習生にミキシング業務を行わせているところはほとんどなく、規模や設備面、安全性など課題が多いため簡単には出来ないのは十分承知の上だが、もっと多くの学生が実習できるとよいと考えた。

また、施設面では大学病院で実習した人は中小規模病院を、中小規模病院で実習した人は大学病院を見てみたかったという意見があり、いろいろなタイプの病院を見られるシステムなどがあるとよいと考えた。実際グループ病院などではいくつかタイプの違った病院を短期間で回しているという話もあった。

もう一つ多かったのは病棟業務をもっとやりたかったという意見だった。カンファレンスに参加してみたかった、いろいろな診療科で病棟業務をしてみたかったなど人によって出来たことも違うので、やりたかったこともいろいろであったが、総じていろいろな患者さん、多くのコメディカルと接したかったことになると考え、他職種とのコミュニケ

ーションにつながると考えた。

<フロダクト>

島のタイトルとその中のカード内容を記載する。

【他職種とのコミュニケーション】

- 他職種の業務内容をもっと知っておきたかった
- 他職種の人とはどんな仕事をしているのか知っておけばよかった
- 色々な人とのコミュニケーション
- 他職種の人と薬剤師の関係性
- 他部署の業務
- 他職種の人との関わり

【実習中に勉強したかったこと（自主学习）】

- 勉強
- 薬の相互作用の勉強
- 薬品の用法・用量・名称の勉強
- 患者さんに対する言葉使い
- 商品名の勉強

【薬剤師の現実】

- お金の話

【業務内容～もっとやってみたかったこと～】

- 服薬指導後の経過観察をしたかった
- いろいろな患者さんの服薬指導
- 調剤業務
- もっと多くの患者さんと関わりたかった
- 軟膏の詰め
- 病棟業務

【業務内容～できなかったこと～】

- 担当した病棟以外の病棟の薬剤師の仕事も見てみたかった
- 抗がん剤のミキシング
- 注射や抗がん剤のミキシング
- 自分の大学の病院だけでなく他の病院の見学もしてみたかった
- カンファレンス
- 症例報告

【環境の問題】

- 大学病院でも実習してみたかった
- いろいろな診療科を見たかった
- 100～200床ぐらいの病院も学んで見たかった

第三部

今後の病院実務実習に 提案したいこと

第三部

病院に勤務して11週間が経過しました。
自分たちが描く病院薬剤師のあるべき
姿を考え、
今後の病院実務実習へ提案したいこと

これからの作業

第一部、第二部を踏まえて討議し、提案しよう！

病院に勤務して11週間が経ち、自分たちが描く
病院薬剤師のあるべき姿を考え、今後の病院実務
実習へ提案したいこと

- 病院実務実習のさらなる充実に向け、何ができるか？
 - ・ 我々病院薬剤師として、行うべきこと
 - ・ 第1期生として、取り組んでいきたいこと
- 後輩たちへのアドバイス

これからの作業

- ・ 討議は、ホワイトボードで
- ・ 発表は、箇条書きにしたものを
パワーポイントで

第一部、第二部のまとめ 島の名札を紹介(代表的なもの)

<グループ名>

<第一部>

- ○○○…
- ○○○…
- ……
- ……

<第二部>

- △△△…
- △△△…
- ……
- ……

病院実務実習のさらなる充実に向けた対応

<グループ名>

我々病院薬剤師として、行うべきこと

- ○○○…
- ……

第1期生として、取り組んでいきたいこと

- △△△…
- ……

病院実務実習のさらなる充実に向けた対応

<グループ名>

後輩たちへのメッセージ

- ○○○…
- △△△…
- □□□…
- ……
- ……

作業時間 60分

休憩10分

(14:50)

(集合時間 15:00)

発表 5分

質疑 3分

総合討論 15分

C → A → B

Aグループ

第三部：今後の病院実務実習に提案したいこと

<議論の経過>

第三部のテーマは「病院に勤務して11週間が経ち、自分たちが描く病院薬剤師のあるべき姿を考え、今後の病院実務実習に提案したいこと」であり、司会の進行の下、①我々病院薬剤師として、行うべきこと②薬剤師のあるべき姿（第1期生として、取り組んでいきたいこと）③後輩たちへのメッセージという順に話し合われた。

まず、①としてそれぞれが考えるものをざっくばらんに発言し、内藤さんがホワイトボードに書き込んでいった。その後、挙げられた意見の補足あるいは具体的に何を行うべきかという議論になった。この際に、第一部、第二部のプロダクトを参考に、使えるテーマ（意見）はそのまま取り入れ、内容を膨らませていった。

しかし、途中で石毛さんの「（議論の）目標がはっきりしないと、①の意見がまとまらないので、②（薬剤師のあるべき姿）の方を話し合った方がよいのでは」という発言により転換が促され、議論のテーマが②に移った。そこで挙げられたのは、「（薬剤師としての）専門性を高める」、「業務のすみわけ（業務の効率化・本来薬剤師がやるべき業務とそうでない業務を分ける）」、「他職種に頼られるようになる・他職種に興味を持つ」など。そこで出た谷川さんの「それらをひっくるめてチーム医療の充実が大きな目標となるのではないか」という発言に他のメンバーもうなずき、全体の流れがほぼ決まった。

残り時間10～15分程度のところで③のテーマに移った。後輩たちへのメッセージは第一部から第三部の意見を元に自然と出たものと、自分たちの実習などの経験を元に出てきたものがあつた。Aグループのまとめの中では、他部署に興味を持ち、つながりをつくるといったコミュニケーションを大事にするという意見が目立ち、それが最後のメッセージにも反映されていた。

全体として駆け足ではあつたが、話し合いの裏で藤間さんが発表スライドをまとめてくれ、石毛さんが発表の際にスライドに入りきらなかったことを口頭の説明で補足くれた。発表後、質疑応答・コメントで指摘された箇所の手直しを行った。例えば、マンパワーの充実というのは、単純に人数を増やすだけでなく業務の見直しや効率化という意味も含める等、ニュアンスの補足を何か所か行い、作業を終えた。

<フロダクト>

テーマ1；我々病院薬剤師として、行うべきこと

- 他部署との連携を増やす→カンファレンスへの参加
- 病棟に薬剤師が常駐→専門知識をもっとつける
- 業務の見直し・効率化→実習生に対する姿勢
- 個人のニーズに合わせる→コミュニケーション
- 病院同士の連携→グループ実習

テーマ2；第1期生として取り組んでいきたいこと

- 専門性を高める
 - 業務のすみ分け（業務の効率化・本来薬剤師がやるべき業務とそうでない業務を分ける）
 - 他職種に頼られるようになる・他職種に興味を持つ（コミュニケーション）
- ⇒ チーム医療の充実

テーマ3；後輩たちへのメッセージ

- 調剤は大事！
- 知識をつけて希望を言う（振り返り/やりたいことを主張）
- 一年目の薬剤師などに話しかけて先輩たちの経験を聞く（疑問をどんどんぶつける）
- 視野を広く持つておく
- コミュニケーションを大事にしよう！

Bグループ

第三部：今後の病院実務実習に提案したいこと

<議論の経過>

第1部及び第2部の作成資料を元に、議論を進めていきました。与えられた以下のテーマ1～3について、1, 2を並行して議論し、それをふまえて3へのメッセージへ繋げました。最後は1部から3部を通してBグループが最も伝えたいことを話し合い、結論のメッセージとしました。項目1, 2の線引きが難しく、どちらに入れるべきか考えあぐねる場面が多々ありました。

まず、一番初めに出てきた意見が、

- ・ 実習生への質問の投げかけ（テーマ1）

です。第1部の意見として出てきたものがここでも出されました。全員が大きな賛同を示した意見でした。議論の結果、この意見の趣旨として3に分けることができました。

- 業務に関連したこと、経験に関連した質問を投げかけることで、実習生が教科書からでは得られない現場での知識を得られることができる。また記憶にも残りやすい。
- 「こんなところを気にすればいいんだ」、「全く疑問にも思わずにいたけど、実は気にしなければいけなかったんだ」等実習生の考える力も養うことができる。
- 知識や業務に関係なく、一人でぼつんとした時間を作らせないよう積極的に話しかけてあげることで実習生が実習をしやすい環境を作ることができ、同時にそれは実習生が自分の意見や質問を言いやすくしてあげることができる。積極性を形成してあげられる。

ここで、

- ・ 薬学部の学生の実習についての他職種間への周知（テーマ2）

の意見が出ました。これは実際の実習の経験をふまえたもので、薬学部が実習を行っている知らない医師は実習生が誰なのか知らず、何故ここにいるのか訝しげに扱われる一方で、薬学部の実習生と知っている医師は医師の観点からの質問をたくさん投げかけてくれてとても勉強になったという意見でした。この違いは薬学部の実習生に対する認識の差異にあり、病棟に上がり他職種と顔を合わせる機会の多い6年制実務実習において、薬学部実習の周知を徹底的に行うべきという結論になりました。これは1期生だからこそ気づけたことということで“テーマ2”の意見としました。しかし、周知をして更に他職種が薬学部の実習のために力を貸してくれるためには、他職種と自分たち薬剤師がコミュニケーションを十分に行い、信頼関係を築きあげていなければいけない。こうした意見から、「他職種間との連携（テーマ1に該当）」の重要性を感じ、これは薬

剤師全員で取り組むべきことという結論に至りました。

“テーマ 1” に関しては第 2 部の自分たちの一番の願いを反映させて、特に

- 病棟実習の期間延長（テーマ 1）
- 急性期と慢性期の実習の経験（テーマ 1）

を行うことで、将来を考える上でも実習生の力となるとの意見を考えました。実習した病院が急性であったのに、就職したところは慢性で全然業務内容が違って驚いたとの体験談もありました。第 1 部、第 2 部での全体討論で実際に他病院にも行くことができたという他グループの話も参考になりました。

また、病院個体でどうにかできる問題ではないかもしれないもののもっと大きな問題として、実習内容が均一でないこと自体が実習生のストレスになっているということを挙げ、

- 実習内容の均一化（テーマ 1）

の意見が出ました。事実、第 2 部で出てきたことへの賛同についてそれぞれ個人差が大きかったことが言及されました。

ここで、聖マリアンナ医科大学病院での実習経験を例に、

- 実習の専任（担当）薬剤師の配置（テーマ 1）

が提案されました。専任の薬剤師がいれば、少なくともその病院内での実習内容の質向上及び均一化の補助となり、実習がより充実したものとなると話し合われました。更に、実習生自体もわからなければこの人に聞けるという安心感が得られるという利点も考えられました。

また、薬局実習と病院実習があまりにはっきり線引きされすぎており、病院実習中も他病院や薬局薬剤師の存在を感じる、すなわち薬薬連携を実感してもらうため、

- 他病院や薬局との関わりを深める（テーマ 2）

ことも更に必要ではないかという意見が出ました。他病院との連携は病院実習の情報交換も容易になり、実習内容の均一化に繋がるとも考えられました。

“テーマ 3” 後輩達へのメッセージとしては、実習時何となくやってしまって今後悔する気持ちがあるとの意見もあり、やはり自分で意識をして積極的に参加していくことが大切という議論になりました。そのため、

- 他職種の人と積極的にコミュニケーションをとってください（テーマ 3）
- 自分のやりたい事を主張してください（テーマ 3）
- 高い意識を持って取り組んでください（テーマ 3）

といった 3 つがメッセージとして挙げられました。

ここで、“テーマ 2” に関する意見が少なかったため、自分たちができることは何かという話になりました。実習中、カッコいいと思う薬剤師を見つけその人を目標に頑張ることができたという意見が出て、そこで最初の 6 年制卒薬剤師として自分たちが

- 実習生の模範となる（テーマ2）

ように頑張ろうという意見が追加されました。それと合わせ実習生には、

- お手本となる薬剤師を見つけてください（テーマ3）

というメッセージを加えました。

また、実習から現場に出るまでブランクがあること、身についたと思うことも忘れてしまうことが多いことから、少し面倒でも実習時に学んだ知識や経験、自分が感じた思いを記録しておくとうまくいくようになった今でも役に立つという意見から、

- 実習の記録やメモをまとめて下さい（テーマ3）

のメッセージを入れました。

第1部から第3部を通して、Bグループとして何を一番伝えたいかを全員で考えた結果、結局実習で何を一番感じてほしいかというメッセージは、

- 患者さんを見て下さい（テーマ3）

になりました。

医療は患者を中心としています。6年制は講義等でそういった概念・考え方を学んできました。しかし、私達Bグループの話の議論からは実習に出て自分が患者と接し、患者の視点を知ったことで真の意味で実感したという意見が多く聞かれました。

「実習に出て患者さんの病気を治すために一番いい治療を、薬を、教科書や最近の知見からの情報を患者さんに」

そうこちらが考えても、患者には皆個々にそれぞれの思いがあり、病気を抱えながらも妊娠を希望している患者がいたり、経済面の事情など様々な背景があることを私達は実習で経験しました。

患者の視点を知り患者個々の状況を受け入れた上で他職種と協力してその患者への最良の治療を考えること、それが重要であり、たくさんの患者を見て、話して、教科書からだけではわからないことを自ら経験して学んでほしい、その思いからこのメッセージをBグループのメインメッセージにして結論としました。

<プロダクト>

テーマ1；我々病院薬剤師として、行うべきこと

- 実習生への質問の投げかけ
- 他職種との連携
- 病棟実習の期間延長
- 急性期と慢性期の実習の経験
- 実習内容の均一化
- 実習の専任（担当）薬剤師の配置

テーマ2；第1期生として取り組んでいきたいこと

- 薬学部学生の実習について他職種に周知する
- 他病院や薬局との関わりを深める
- 実習生の模範となる

テーマ3；後輩たちへのメッセージ

- 他職種の人と積極的にコミュニケーションをとってください
- お手本となる薬剤師を見つけてください
- 自分のやりたい事を主張してください
- 高い意識を持って取り組んでください
- 実習の記録やメモをまとめて下さい
- 患者さんを見て下さい

Cグループ

第三部：今後の病院実務実習に提案したいこと

<議論の経過>

私たち、Cグループでは第1部・第2部を踏まえた上で、第3部のテーマである『今後の実習へ提案したいこと』について討議いたしました。

まず、実習を行ったうえでスケジュールを提示していただけたことは、頭の整理や次の実習内容の予習ができたりするため、実習の効率化につながると考え、「我々病院薬剤師として行うべきこと」として続けていきたい、という意見が出ました。

次に、第1部の『実務実習を振り返って、よかったこと・役に立ったこと』から、勉強の大切さということを出し、そのことがどう「我々病院薬剤師として行うべきこと」「第一期生として取り組んでいきたいこと」「後輩たちへのメッセージ」につながってくるのか、ということについて話し合いました。その結果、「我々病院薬剤師として行うべきこと」としまして、調剤時等に口頭試問を行って、学生の勉強の機会を増やしてあげたりするというのいいのではないかと、という意見が挙げられました。また、「第一期生として取り組んでいきたいこと」としましては、自分が実習していた時のことをフィードバックしてあげたらいいのではないかと、という意見が挙げられました。上の先生方は実習生を、きつこうであるだろうというイメージで接し、実習してくださると思われるのですが、私たちは実際に実習を経験してきているので、そのことを活かし、どういったことが座学と違うのか、であるとか、どこが学生にとって分かりづらいことなのかということ意識して、フィードバックしてあげられるのではないかと考えました。「後輩たちへのメッセージ」としましては、積極的に勉強に励んで欲しいという単純で分かりやすい意見が挙げられました。

さらに、第2部の『実務実習を振り返って、やっておきたかったこと』から、多職種とのコミュニケーションをとりたかったことや、業務内容について、もっとやりたかった・できなかったということについて抽出し、先程と同じように話し合いました。その結果、「我々病院薬剤師として行うべきこと」としましては、他部署との連携を強めることが大切である、という意見が挙げられました。連携を強めることにより、医師や看護師の参加するカンファレンスへの参加を可能なものにしたり、病院の流れを知るための院内見学を行うことができるようにしたり、直接患者さんに関わる看護師体験を学んでもらえる機会を作ることができるかもしれないと考えました。また、実習施設の差による実習内容の補填、実習内容の均一化のために他病院との連携がとれるようになったら、実習がより良いものとなるのではないかと意見も挙げられました。この意見に関しては、具体的に、実習期間中の実習生の交換を行うであるとか、付属の病院を持っている大学の学生が、自分の大学以外の研修施設を選べたり、逆に大学付属病院以外の大学の学生が実習を行えたりできたらいいなという話し合いにもなりました。

その他にも、服薬指導や症例報告の機会を増やしてあげる、実習内容の拡充として抗がん剤のミキシングや TDM などの業務をもっと体験できるようにしてあげる、といった意見が挙げられました。また、学生側に対してだけでなく、指導薬剤師側として研修を行うのはどうだろうか、という意見が挙げられました。研修というと少し大げさかもしれませんが、複数の薬剤師が指導を行うと思われるので、指導内容の確認や連絡を取り、指導薬剤師の認識の共有を図れたら、実習の効率化や質の向上につながるのではないかと考えました。

「第一期生として取り組んでいきたいこと」としましては、大学側にもフィードバックをしてはどうか、という意見が挙げられました。これは、事前実習の在り方について、半年や 1 年間漫然と事前実習を行うのではなく、実習に行く前に短期で集中させるのが効率的ではないかという意見や、薬局実習と病院実習でここは重複して実習を行っているからどちらかを削り、その分他のことを学べるようにしてはどうかと提案するのもいいのではないかという意見でした。

最後に、私たちが実習を行ってきた経験から、「後輩たちへのメッセージ」としまして、社会人としてのマナーを身に付けて欲しいという意見と、視野を広く持って欲しいという意見が挙げられました。学生の身分ではあるけれども、社会に出て実習を行うのだから、時間はきちり守るであるとか、目上の方と接する機会が多いはずであるから、言葉遣いには注意するといった、最低限のマナーは身に付けて欲しいと考えました。また、視野を広くという意見は、実習自体は薬剤部で行われるかもしれないけれど、せっかく病院で長期にわたり実習を行うのであるから、薬剤部だけでなく、医師や看護師、その他医療スタッフとどう関わりがあるのかということや、卸や MR の方の業務を含めた病院全体に視野を向けて欲しいと考えました。

<プロダクト>

テーマ 1；我々病院薬剤師として行うべきこと

- 他部署との連携を強める（カンファレンス、院内見学、看護体験）
- 指導薬剤師の研修（指導内容の確認、連絡）
- 他病院との連携（実習の補填、実習内容の均一化）
- 服薬指導や、症例報告の機会を増やす
- 口頭試問など、勉強の機会を作る
- 業務内容の拡充（抗がん剤のミキシングや TDM など）
- タイムスケジュールを提示する

テーマ 2；第一期生として取り組んでいきたいこと

- 自分が実習していた時のことをフィードバックする
- 大学側にもフィードバックする

テーマ3；後輩たちへのメッセージ

- 社会人としてのマナーを身に付けて欲しい
- 視野を広くして欲しい
- 積極的に勉強して欲しい

印象記

Aグループ 東 信太朗

この度は6年制卒病院薬剤師ワークショップ in かながわ に参加させていただき誠にありがとうございました。様々な病院の薬剤師の方々と卒業後にお会いすることができ、また6年制一期生として経験した長期実務実習についてのワークショップという、とても素晴らしい機会に参加できたことを大変嬉しく思っています。

就職してからのワークショップということもあり、それぞれの病院の様子なども意見交換することができました。同じ境遇の同期と意見を交わすことでお互いに率直な意見を討論し合うことができ、長期実務実習のこれからの在り方についての意見を挙げることができました。大学によっても実習のカリキュラムが違うことなども知り、後輩が有意義な実習を行っていけるように先輩として何を伝えていかなければいけないのかについても考えさせられる良い機会となりました。

また、自分の意見をしっかり述べる姿勢にとっても刺激を受け、もっと私も頑張らないといけないという励みになりました。今回のワークショップで得た繋がりを大切にしていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回のワークショップを主催してくださいました諸先生方に心より感謝申し上げます。

Aグループ 石毛 聡子

ワークショップに一日参加させていただき、貴重な体験をさせていただくことができました。

まず、一番私が感じたことは、皆が考えているこれからの薬剤師のあるべき姿がほぼ同じであるということでした。やはりこれからの病院薬剤師というものは、“より臨床現場に積極的に出ていき、チーム医療に参加していくことが重要である”という考えがほとんどでした。これは6年制教育になったことで、「臨床に強い薬剤師を育てる教育」を受けてきたということが大きく影響しているのではないかと思います。

実務実習についてのSGDでは、施設によって偏りがあるということを強く感じました。学生側からしてみると、均一化をしてほしいという気持ちはあると思いますが、現状難しいということも皆感じていました。施設ごとに設備を整えることは不可能でも、地域ごと等で協力をして他施設を見学させてあげる機会があれば良いのではないかと考えます。自分の実習した施設だけがすべてではないということが理解できるだけでも、学生にとっては大きな意味があると感じました。

こういった他の大学出身の方とディスカッションをする機会があるということにより、情報の共有が出来、自分の実習先では体験することのできなかつた

ことについても聞けるのでとても勉強になりました。実習が終わってすぐに参加できればもっと良かったと思いました。多くの方の感じていること、考えていることを聞くことが出来、良い刺激を受けることができました。

こうしてせっかく貴重な体験をさせていただくことができたので、自分が実習施設の薬剤師としてすべきことを考え、実習生に少しでも有意義な実務実習が出来るようお手伝いが出来ればと強く感じました。また、第1期生の薬剤師として恥ずかしくないよう、精進していきたいと思います。このような機会を作っていただけたこと、心より感謝致します。

Aグループ 北澤 紀幸

先日の6年制卒病院薬剤師ワークショップを終えて自分や同世代の他の人が実習を今にどう生かしているか、また何が足りなかったかについても一度振り返って考える機会をいただいた事で今自分の施設に実習に来ている5年生の学生達に対する自分なりのケアやアドバイスができると思えるようになりました。また、自分にない発想や視点での実習の捉え方についてSGDを行うことで気づくことができました。

薬剤師としての経験や知識はまだですが長期実務実習をしたという経験では他の薬剤師の先生方にならぬ視点で後輩の指導を行うことができると思うので、そこも自分に与えられた役割としてこれから行っていきたいと思います。また明確ではなかった薬剤師としての自分の将来像についても、どんな薬剤師を目指すべきなのか、そのために何をしなければいけないのかについて考える機会をいただけたことでより整理できた形でイメージすることができるようになりました。

薬剤師として後輩の教育は大事な使命の一つであり、そこに自分にもできる役割があると気づけたことは今回の大きな収穫の一つでした。

このような機会を作ってくださったことに感謝すると共に、これからもこういった機会を設けて頂けたらと思います。

Aグループ 谷川 大夢

今回、6年制病院薬剤師ワークショップに参加し、入職してからの日々や自身が大学5年次の病院実務実習で学んだことを改めて感じる事が出来た1日となりました。また、普段接する機会が少ない他病院の同期の方々との会話やディスカッションの中で自分とは異なる経験や考えを知ることができ、新しい視野や価値観を得ることが出来たと感じています。

例えば、私は病院実務実習で調剤業務を行わず、病棟に行く時間が長かったため、今後の薬剤師は病棟に行くことが当たり前の流れで、病棟活動こそがメインの業務になると感じていました。しかし、他の方々の意見の中には病院で

調剤業務を行うことで調剤業務の重要性を感じることができ、調剤業務ありきの病棟活動であるという話があり、病院によって行う内容や担当する薬剤師が異なることにより学生の考え方や思想が変わることに気付くことが出来ました。そして、同時に病院実務実習を受け入れる病院側の責任の重さや重要性を強く感じる事が出来ました。

今回のディスカッションの中で特に多く意見が上がった改善点として病院により実習内容の違いがあったり、学生が希望する業務の見学が難しかったりともまだまだ改善すべき点があると感じました。しかし、6年制の病院実務実習はまだ3年目に突入したばかりであり、今後の病院実務実習の充実のために私たち6年制卒の薬剤師も自らの経験を活かし、学生の将来に大きく影響を与えるであろう11週間をサポートしていく必要があると感じました。

Aグループ 内藤 桂子

今回この様な、様々な病院の新人薬剤師同士が集まり情報交換の場を与えていただきありがとうございました。今日一日のディスカッションを通し私たちが5年次に行った実務実習にどのような意味があったのか改めて振り返り、本当に有意義なものであったと感じるとともに、6年制の1期生である私たちが今後後輩たちにどのようなことを伝えていかなければならないのかを考える良い機会になりました。実習をやってよかった点・もっとやりたかった点、今回私たちディスカッションを行った事で今後の後輩の実習がさらに有意義なものになってほしいと思います。

実際に病院薬剤師として4月から働き始め仕事への責任・考えなければならぬことの多さに実習の時との違いを感じていますが、今回実習を振り返り実習があったからこそ現在に活かされていることも多いと強く感じています。また、普段なかなかお話する機会がないほかの病院の薬剤師の方々と現在勤務する病院での新人教育がどのように行われているかなどを知ることでもできこれから病院薬剤師として働いていくための励みにもなりました。

またこのような機会があれば是非参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

Aグループ 藤間 友梨

薬剤師として病院に入職してから十一週間というこの時期に、同じように実習を経験した六年制一期生の仲間たちと実務実習について振り返る機会が与えられたことによって、四月から感じていたことを再確認できました。

一つは、実務実習というカリキュラムを経験できて良かったということです。実際に薬局や病院に就職したら自分はどのような業務を行うことになるのか、また、どのような知識が必要になるのか。薬局（薬剤部）内での調剤業務を行

っている現在ですが、病棟薬剤師が行っている業務に触れたことがないままでは、処方せんの見方一つを取っても業務に対する姿勢が大きく違ったのではないかと感じられます。

もう一つは、同職種内では勿論ですが、他職種ともコミュニケーションを取ることの重要性です。実習を通して先輩薬剤師の方々から医師や看護師、栄養士、理学療法士など様々な職種が様々な方面から患者様に関わり、そこに薬剤師も薬の専門家としてサポートすることでより良い医療を提供できることを学ぶと同時に、他の職種と関わっていく以上は薬剤の知識をもっと身に付け、それを提供していかなければいけないと改めて確認することができました。

実務実習を振り返り、得られたものは数多くありましたが、実習が始まる前、又は実習中には未経験という点から、何を学びたいのか、何を学ぶことができるのか等わからないこともあったため、実習を経験した私たちが学生たちに向けてできることについても考えていきたいと思います。

Aグループ 前田 悠佑

ワークショップは初対面という戸惑いのなか始まりましたが、第一部のまとめに入る頃には解消されていました。グループAの第一部のプロダクトは大学関係のことを木の幹に、「薬剤師業務の理解」や「コミュニケーション」等を葉にして上に伸びてゆくイメージにしました。発表もわかりやすかったですが、質問・コメントがなかったのが少し残念でした。また、グループによって色が違う印象でした。

第二部は第一部よりも手際よく行えました。島は大きく3つにしましたが、厳密に分けることは出来ず、それは薬剤部内外の業務が密接に関わり合っているためだと思われました。「院内でのこと」を見ると、薬剤師の職能が発揮できる分野を実際に見られることを期待していたという印象でした。また、話し合いの中で、実習の経験に差があることもわかりました。

第三部もスムーズに進みましたが、まとめられた意見は言うよりも行うのが難しいものばかりでした。一応、出来るだけ実現可能なことを考えましたが、何と言っても自ら行っていかなくてはいけないのだなと感じました。

1日を通して他の人と色々な思いを共有できたのは貴重な機会でした。そして、企画側の方々による内容・時間の設定と作業中の絶妙なアドバイスのおかげで、体力的には非常に疲れましたが充実したワークショップになりました。また、ワークショップを経て、更に日々の業務に力を注ぐことが大事だと考えさせられました。

Aグループ 横山 咲野

正直なところ、参加前はスモールグループディスカッションに丸1日を費やすとはどのようなものなのか想像がつかず不安でした。しかしはじめのディスカッションを始めて、その不安は時間内に果たして終わるのだろうかという不安に変わるほどとても有意義な時間を過ごすことができました。

私は病院実習を同じ大学の学生20人という環境で過ごしたため、他大学の薬学部生と話す機会がほとんどありませんでしたが、今回さまざまな出身、さらに違う病院で働く同期の方々と密に接することができさまざまなことを学ぶことができました。いろいろな病院のことを知ることができたことも自分にとって今後プラスになると思います。またフォローをしてくださった先生方の考え方やアドバイスも参考になることが多く、自分の糧として今後生かしていきたいと思います。

病院で働き始めて4月から3か月経ちましたが、実務実習を体験していない先輩薬剤師さんと違い、すでに体験している私たち6年制出身者は実習にきた学生が何を求めているのか、何を学びたいのかをよりよくわかるという点で、実務実習中の学生に積極的に関わるメリットは大きいと思います。また実務実習以外のことにもつながりますが、今務めているところとは違う病院で実習をした新入職員は、他病院で行っている工夫策や新しいシステムを知っていることが多いので、それを共有することによって職場のさらなる発展に関わることができたらいいなと思いました。

Bグループ 内山 一成

かねてより学生実務実習について興味を持っていた身としてこのような場は非常に興味があり、また実際有意義な場として過ごすことができました。貴重な場に参加させていただき本当にありがとうございました。

自身が5年次に行った実務実習は非常に充実しており、薬剤師として行える多くの業務を経験し、多くの患者様と触れるきっかけを大学・病院に与えていただけていたのだと痛感させられました。しかしSGDを通して他の参加者と意見交換を行うと人により経験できた内容とできなかった内容があり、これはカリキュラムの問題、そして何より実習先の病院の規模にもよると考えられます。薬学5年生として最低限経験されることが望ましい範囲を設定し、そこから更に病院薬剤師に興味を持っている人はアドバンスト実習として混注業務やTDM・DI業務などを経験することができるシステムが必要だと考えます。

また同グループから実習期間の延長を望む声が多くあがりましたが、私はそうは思っていません。11週間という時間はそれぞれの過ごし方により長くも短くもなります。それにやはり研究室の卒論作成と時期が被ってしまう可能性や、そもそも病院への就職を望まない学生にとっては苦痛になりかねません。

もう少しこの点には議論の余地があります。

わずか1日のディスカッションでも多くの意見が出てうなずける話、安易にうなずけない点様々ありましたが、どの内容も今後の薬学生の実務実習に活きればと思います。

Bグループ 小川 隆弘

この度はワークショップという貴重な機会を設けて頂き、誠にありがとうございました。本ワークショップに参加したことをきっかけとしまして、今一度自身の将来や日本の薬学教育について考え直すことができました。

ワークショップを通して、我々一期生が各病院で受けてきた実習内容には差がある、または実践できなかった項目があるなど、若干のバラつきがあるように感じました。しかしながら、各病院には特徴があるため、1つの病院で全ての実習項目を満たすことは難しいのではないのでしょうか。そういった点からも、実習期間を延長し、複数の病院での実習を経験させる環境を構築することを視野に入れてもよいのではないかと感じました。

SGDの時間は短かったですが、その中でも挙げられた「6年制薬学教育を経験したからこそ感じ得た想い」は、今後の実務実習の内容を改善していく上で貴重な意見になると思います。私は関東ブロック大会での発表を担当させて頂きますが、我々6年制一期生からの意見を先輩方に提示し、共に議論し、良き後輩を育てるより良いシステムを構築することに協力できれば嬉しく思います。

また、本ワークショップを通して、新たな横のつながりを増やすことができました。今後もこうしたワークショップが定期的で開催され、「6年制一期生だからこそできること」についてより深く議論していけることを願っております。

Bグループ 金子 明日香

平成24年6月17日(日)に私は横浜市立大学市民総合医療センターで行われたワークショップに参加してきました。私達は6年制卒第1期生であり、5年次に行われた実務実習において薬局と病院のどちらの実習も経験するという、今までで初めてのカリキュラムを修了した卒業生ですので、これからの後輩へより良い実習を実施していくためにも、実際に経験してきた私達が意見を交換し合い、病院実務実習への提案をしてきました。

話し合いの流れとしては、実務実習を振り返ってよかったこと、役に立ったこと、実務実習にやっておきたかったこと、最後に、今後の病院実務実習へ提案したいことの3部に分けて、Iグループ7~8人の3グループに分かれ、KJ法を用いてディスカッションを行いました。テーマがI部終わることに発表・記録、他グループからの質問とその対応も行いました。

話し合う中で、実習の期間についての話題で盛り上がり、実習期間について長い、短いと感じ方はひとそれぞれであったものの、病院薬剤師の業務を実際に経験が出来て、今の自身の業務に活かされていると皆感じているようでした。やっておきたかったこととしては、混注や服薬指導、疑義照会など意見はまちまちとなり、実習内容の均一化が望ましいのではという結論に達しました。最後の提案として、大半の意見でまだ実習中にやりたいことがあったとのことから、実習期間の延長、薬局と業務内容が重複する調剤業務は病院実習では短くして、その分カンファレンスや症例検討会へ参加する機会を増やしたりするのはどうかと、具体的なものも挙がりました。

今後行われるシンポジウムに向けて、発表内容の整理を行い、発表者へスライドの作成の補助などを努めさせていただきます。今回の活動が、これからの薬剤師となる後輩達に、少しでも病院薬剤師に必要性和業務理解に役立てば良いなと思います。

Bグループ 武 宏樹

ワークショップを終えて思った事は、病院によって教え方などが違って実習が終わった後の感想の持ち方が人によってバラバラであったと思いました。規模の小さい病院だから不満とか、規模が大きい病院だから満足だけではなく学べる環境であるかどうかが一番大切であると思いました。また、以前は大学内での意見しか聞く機会がなかったが他大学の人達の意見を聞いてとても新鮮で、色んな考え方や感じ方があるのだと感心しっぱなしでした。

ワークショップでは知らない人ばかりにもかかわらず、周りの人たちは知り合いで最初は中々話に参加出来なかったが自分が司会をしてから話す事が出来るようになり、実習中の事だけではなく入職してからの事など色々な話を聞いてこれからの参考にして行きたい事もたくさん聞いてとても有意義でした。司会をやらせてもらった時には一生懸命話をまとめようと思ったが中々上手くまとめられず話が逸れたりしてしまっただが良いポスターが出来たと思った。それも実習をやってきて良い所、悪い所色々思う所があるからこそ話が逸れてしまったのだと思う。実習を行った事は実習先に入職しなくても、入職後にたくさん活用される事だと思う。今は実習を受け入れる側なので実習を経験した立場から意見を言えたら良いと思っています。また、この様なワークショップで意見を聞いた事だけではなく、薬剤師の仲間の輪が広げられたと思い参加出来て良かったです。

Bグループ 森川 佳奈

病院薬剤師となって2カ月半が経つ中で、私は学生生活を通して学んできたことが何一つ無駄になっていないことを実感していた。今回のSGDで実習当時

感じていた思いを振り返り自分の目標を再確認すると同時に、何よりその思いを他の6年制卒の薬剤師と共有・討論することで新たに気づかされることも多くあった。

SGDの第1部、第2部のテーマは実習最終日に行ったディスカッションと似ていたが、今実際に働いている経験をふまえて改めて考えて初めて出てきた考えは特に新鮮で、第3部では自分が後輩達のためにできることが思っていたよりたくさんあることに気づいた。私達のグループでは患者の視点を理解できたことが実習の中で得られた最大の利点であり重要であると考えた。場所も規模も特色も異なる様々な病院で実習を行ったはずなのに、SGDで初対面で話し合った人たちが皆が同じような経験をして同じ思いを抱いたことはとてもすごいことだと思う。実習の時に「患者」を一括りにして見て教科書通りの指導を行ったために、その患者自身の本当の気持ちに寄り添えなかったことがあった。今でもその記憶は鮮烈に残り苦すぎる経験となっているが、今回話し合ったことでその経験から顔を背けず向き合い活かすための力を得られたように思う。

自分の考えをしっかりと持つことは大切なことだと思うが、それを伝え他者の考えを聴き討論することは更に重要なことと感じた。出身、学校が違っても同じ方向を向いた仲間が大勢いることが実感でき、心強かった。今回のSGDに参加して、生涯薬の専門家として在り続ける気持ちをより確かなものにできた。

Bグループ 安田 朋奈

今回ワークショップに参加し、5年時の実務実習振り返ることにより、初めて2カ月半という実務実習を経験をした今現場で働く薬剤師として、今後自分に何ができるのか、また実習をより良いものにするためにはどうすればよいのか、ということ深く考えさせられた。

第一部や二部では実務実習を振り返ってよかったことや、やっておきたかったことを話し合い、行く病院の規模や扱っている科、薬剤部の指導方針により経験できることに差が生じるということ改めて実感した。実際に自分自身も精神科という偏った科の中で実習を行ったが、その中でチーム医療の大切さを学んだり、精神科の薬物療法という特殊な知識を得ることができたことに満足している。しかし現在急性期の総合病院で働く中で、2カ月半経験した病院実習との業務内容にギャップを感じることもある。グループ内の話し合いでも様々な病院での実習、せめて急性期と慢性期の2種類が経験できたらという意見が挙がり、それができたら理想的だと感じた。

第三部では実務実習のさらなる充実に向け行うべきこと、取り組んでいきたいことを考えたが、病院内での実習をより良いものにするためにもチーム医療は大切だと感じた。より良い医療のためにはもちろん欠かせないものであるが、単純に他職種と仲が良くないと、せっかくの実務実習が薬剤部の中だけの狭い

ものになってしまうし、実習を行っていることを周知してもらわないと、実習生が肩身の狭い思いをすることになるのではないかと感じた。

また私達は病院だけでなく薬局でも2カ月半の実習を経験している。両方で経験を生かして、薬業連携に取り組むことも実務実習をより良いものにするために大切なことであり、6年制卒の私達が積極的に取り組むべきことだと感じた。

Bグループ 山崎 麻里

私は6月17日のワークショップに参加し、とても有意義な時間を過ごすことができたと思います。なぜなら第一に、自分たちの同期にあたる他の病院薬剤師の方達と、会って話すことができたからです。普段は、勉強会などで顔を合わすことがあっても、話をする機会がないため、関わりを持ちにくく顔見知りになる機会が全くありません。しかし今回のワークショップは、色んな人と知り合うことができる絶好の場だと思ったからです。実際、このワークショップで知り合いになった方と後日、他の勉強会でお会いし、お互いに話すことが出来ました。次に、自分と同期である他の方々がどのような考えを持っているのかを知ることができたことです。自分には無い考え方や、気付かされることも多く、大変刺激を受けることが出来ました。また沢山意見交換をすることで、自分の考え方を再認識することが出来たと思います。今回のワークショップで一番苦労した点は、制限時間以内に意見をまとめ、発表することができるまでの形にもっていくことでした。開始直後は30分もあれば簡単にまとまるだろうと思っていたのですが、実際やってみると、時間に追われ、最後の方はとりあえずまとめる、といった事になってしまいました。今後このような機会があった時には時間配分をしっかりと、余裕をもって発表に挑むことが出来る様になりたいです。

Bグループ 油井孝治

6年制1期生として、5年次病院実務実習は初めての試みであり、まだベースが不十分であり、改善点もあると考えられます。そんな中、今回の3つのテーマについて討論を進めていく中で、今後の病院実務実習の課題や改善点について見出されてきたと思います。

特に私が強く印象に残っていることは、各実習機関で行われている実習に差があるということです。実務を中心に実習を行っている病院もあれば、講義を多く取り入れている病院もあり、それぞれの内容に違いがあります。実務の中でも、病棟実習の期間に違いがあり差があることが話題に上がりました。現在、薬剤師の役割として、病棟でのチーム医療への参画などが求められていると思います。やはり実習では病棟実習の期間を長く設定することや、カンファレン

スへの参加などが必要だと考えます。また、病院にはそれぞれ特徴があり、単科の病院などでは学べることに偏りが出てしまうということも問題だと感じました。

各病院である程度均一な実習を受けられることが重要だと考えます。また、薬剤師に求められることが今後変化していった際には、それらに対応できるよう実習内容の見直しは必要だと考えます。

今回のディスカッションを通して、実務実習を振り返るよいきっかけになりました。また、他機関で実習した方々の話を聞け、とても有意義な時間を過ごせました。お忙しい中貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

Cグループ 池田祐太郎

私は、6年制病院薬剤師ワークショップに参加させていただきました。SGDによる三部構成で行われた中で、第一部で行われた「実務実習を振り返ってよかったこと、役に立ったこと」では自分と同じように多くの人が病院薬剤師になろうと思ったキッカケであったことが印象的でした。自分も実習を経験したことによって病院で働いていくことがイメージでき病院で働くということを考えるようになった一人でした。さらに実習で実際に経験したり学んだことが薬剤師国家試験で生きていたと感じましたが、今の業務につながっているということにも皆の意見によって気づくことができました。

第二部で行われた「やってみたかったこと」では、病院の規模による格差を感じました。大学病院のように大きな病院で実務実習を行えた人と総合病院ではなかった人、設備等によって体験できなかったことが多くの意見であったと思います。そして今年一年目の皆が調剤業務中心であることから調剤に関連した声が多かったように思います。特に現状で力不足に感じている用法・用量や相互作用など現状からの多くの意見が反映されていました。

第三部での「今後の病院実習へ提案したいこと」には一部、二部で話し合われたなかから良かったことは継続しできなかったことを改善できたらいいという方向の話し合いになりましたが、病院の規模、連携、薬剤師の人員から難しいことが多いのかなとも思いました。比較的大きな病院で実習を行った人が多いグループであったと感じました。診療科の少ない病院など特色を持った病院で実習を経験した人はどう感じたのかグループ内ではわからないこともありました。

Cグループ 石川文子

第一部のSGDでは、実務実習を振り返ってよかったこと、役に立ったことが話し合われた。学校では薬を見ていたが実習では人をみることができたなど、患者さんの接し方を学べ、病院薬剤師の業務を体験できたこと。実際の薬をみ

ることによって薬についてもっと勉強したいと意欲がでたなど国家試験にもつながったこと。薬剤師の仕事にやりがいを感じたことや尊敬する先輩に出会って病院薬剤師になろうと思ったきっかけになったことがKJ法に沿ってまとめられた。SGDで話しあうことで、自分の実習させてもらった病院がすべてだと思っていたことが、それぞれ病院によって特色があることを学んだ。実習をして、いろいろな先生がたに出会えたことがいまの自分に繋がっているのも、とても貴重な体験だったと思う。

第二部のSGDでは、実習中もっとやってみたかったことが、話し合われた。抗ガン剤のミキシングなど混注業務や、いろいろな科での病棟業務などもっとやりたかった業務、できなかった業務、規模や設備の異なる病院で実習してみたかったなど環境の問題、他職種と積極的に関わりたかったなど他の医療スタッフとのコミュニケーションを深めた交流を持ちたかったこと。もっと薬について用法用量などを自己学習することによって知識を深めたかったなどが挙げられた。2.5ヶ月という限られた時間で、最大限に調剤業務をはじめ、病棟業務、注射剤業務、在庫管理などを実習できたと感じている。実習を通して病院全体のことを学べたので、自己学習など、自分自身足りなかったと感じる面は多々あるが、実習自体とても有意義だったと感じている。

第三部では、第一部、第二部で話し合われたことの改善策をKJ法でまとめた。病院薬剤師として他部署との連携を深めたりし、実習生に満足のいく実習を行なってもらえる対策がピックアップされた。6年制一期生としても、大学側にどんな実習だったか、きちんとフィードバックを行うなどが挙げられた。今回、SGDで他の病院の方々と話し合うことでなかなか実習について振り返る機会がなかったが、病院ごとにいろいろな実習の特徴について知ることができた。これから病院実習を行う学生さんには、より有意義と感じられる実習になれるよう頑張っていきたいと思った。なかなか他の病院の先生方と知り合う機会がないので、とても貴重な交流を持つことができ、大切にしていきたいと思った。

Cグループ 奥野 由依

6年制卒病院薬剤師ワークショップに参加して、様々なテーマについて話し合い、薬学6年制教育の実務実習について改めて考えてみると、自分自身が実習生だったときには、社会的背景などを考えた事もなかったように思う。また、1期生だったこともあり、自分たちが実習生だった頃は「さぐりさぐり」の実習だったような印象がある。自分自身が病院薬剤師として実習生と接する立場になった今、病院薬剤師を取り巻く環境や病院における長期実務実習に対する考え方を学べた事は、非常に有意義であった。

それぞれ異なる環境で実習を受け、異なる病院に勤務する薬剤師と話し合っ

てみると、自分が実習した病院のよかった事、もっとあんな事がしたかったというような事が明確になった。やはり自分が置かれた環境では、当たり前的事として疑問に思わなかったことも、他の人の実習内容を聞いてみると、自分の実習先の病院のよかった事、逆にいまひとつだったことが分かるのだという事を知り、多くの人と意見交換をすることの重要性が感じられた。

また、今回このような機会をいただいたからこそ、薬学6年制卒業の1期生として出来る事があるのではないかと気づく事が出来た。まだ、自分自身が日々の業務で精一杯という状況ではあるが、当院でも実務実習を受け入れているので、実務実習を経験した私達にしか出来ない実習生との関わり方があるのではないかと感じた。また、実際に実習生を教育している薬剤師にアイデアを提案する事により、さらに有意義な実習を学生に提供する事が出来るのではないかと思う。

今回、話し合いの中で病院実習が病院薬剤師という仕事に就くきっかけに十分なりうる事が分かったので、病院側はもっと実務実習に力を入れていくべきではないかと思った。

このワークショップを通してたくさんの事を学べたが、同じ新人病院薬剤師と知り合う事が出来、非常に有意義な1日であった。

Cグループ 白井 友基

6年制第1期生という立場で、長期実務実習を振り返ることを目的とした本ワークショップに参加させて頂きました。

今後の病院実務実習の実施に少しでも参考となり、ひいては後輩たちがより良い実習を経験できるよう議論させて頂きました。また実務実習は私にとって進路を選択する上で非常に重要な経験だったので、実習の話題を深く掘り下げることが出来た今日のディスカッションは、自分自身の振り返りの意味でも大変有意義でした。1期生の交流の場としても、一日の議論を通して良い関係を築く一歩となったと感じました。この関係を大切にしていきたいと思います。討議については、深く共感できる意見もあれば考えもしなかった意見もあり、活発で面白い議論になりました。自分も含め第二部よりも第一部の方が意見数が多かったことが印象的で、今後は病院に就職しなかった方の意見も含めて討議してみたいと感じました。

第三部のテーマの一つである第1期生として何をしていくかについては、方向性は挙げたものの具体的な意見は出せませんでした。これを機に、どのような薬剤師を目指すかも含め考え続けていく事が重要だと、本ワークショップ全体を通して感想を持ちました。

最後になりましたが、貴重な機会と、多くのアドバイスを下さったタスクフォースの先生方に感謝いたします。ありがとうございました。

Cグループ 堀 絵里子

今回まず2つのテーマの「実務実習を振り返ってよかったこと、役に立ったこと」、「やってみたかったこと」を話し合ったことにより、「今後病院薬剤師として行うべきこと」とつながり、色々な意見がでたのではないかと思います。

話し合いの中で、実習先の病院による環境の違いで、実習で出来たことと出来なかったことがあることが分かりました。その中で規模や設備の異なる病院でも実習してみたかったという意見があり、私が実習した病院はグループ病院だったので、急性期や慢性期、療養型の病院に短期間の実習や見学をさせてもらうことができ、とても貴重な実習をしていたことを改めて思いました。これから病院薬剤師として行うべきこととして、他病院との連携による実習の補填や実習内容の均一化などをグループの意見として出しましたが、今回のワークショップで出た意見がこれからの病院実務実習に少しでもつながり実現したらこれからの病院実習が濃い内容のものになるのではないかと思います。

また、これからの薬学生が充実した実習を行うためには、これから薬剤師になる学生たちが薬剤師になった時に現場でさらに活躍してもらうために良い実習をさせたいと先輩薬剤師に思われるように、私たち6年制薬剤師の一期生がこれから医療の現場で先輩薬剤師や他職種の方たちの期待に応えていける存在にならなければいけないと思いました。

Cグループ 眞下智尋

久しぶりのグループディスカッションで、周りに知っている人もほとんどいないような状態だったので、どうなるかと心配でしたが無事終わることができてまずはほっとしています。

勤務先・実習先ともに様々で似たような悩みもあれば、自分では考えられないような意見も聞けてとても参考になりました。

実習が終わって丸二年が経過してしまった今、実習について話すというのは思い出話を するような形になってしまうのではないかという気持ちもあったのですが、先生方の助けも借りてきちんとしたディスカッションを行うことができたと思います。

仕事を始めてみて気づいたことも多く、実習していてよかったなと思うこともあれば、あの時もっとこうしていればよかったなと思うこともありました。特に私はがんセンターという特徴ある施設で、実習させて頂いていたので、もっとがんセンターでしか体験できないことをたくさん勉強しておけばよかったなと感じました。

また、グループの構成がよく考えられていて病院の規模や種類の違う人同士だったので、片寄らず意見がでていたと思います。

ワークショップに行く前は不安が勝っていましたが、今は参加してよかったと

思います。

ここで、出来た繋がりを大事にしていきたいと思いました。

Cグループ 三浦 輝

先日行われました、6年制卒病院薬剤師ワークショップ in かながわは、私にとってとても勉強になり、またモチベーションの向上につながるいい機会でした。

初めに会場に入ったときは緊張していましたが、参加者と討議していくうちに少しずつ慣れ活発に意見交換できたと思います。実務実習を振り返り自分は何を経験してきたのか、ということに改めて考えることができました。また、他の参加者と意見交換をすることにより、自分一人では考え付きもしなかったような考えに触れることもできました。

病院薬剤師になった今、実務実習と実際の業務を比較し討議できたことは、自分を見つめ直すいい機会となった気がします。今回討議していて、私はもっと貪欲に実務実習に取り組むべきであったと、少し後悔しました。2.5カ月の実務実習の際には前だけを見て、ひたすら実習をこなすことに精いっぱいでしたが、もし私に6年制の先輩たちがいたら話を聞けたり相談できたりと、より充実した実習を行うことができたのかなと思いました。

討議中では、自分たちで煮詰まった際には、とてもいいタイミングでタスクフォースの先生方が助言をして下さり、その甲斐あって、滞ることなく討議が進められたと思います。改めまして、タスクフォースの先生方には感謝しております。

このようなワークショップに参加させていただき、とても感謝しております。本当にありがとうございました。

Cグループ 山口晃司

今回、6年制病院薬剤師のワークショップに参加させて頂いた事で、私にとって非常に勉強になった点がいくつかあった。

まず5年時に行った実習を振り返ることで、実習時に学んだことを再確認する事の重要性を学べたことだ。具体的には、調剤業務における技術や代表的な薬剤の使用法、処方鑑査等である。現在においても重要な位置を占めているそれらを再確認する事で、日々の業務を円滑に行う上で非常に有用であると気付かされた。今後も、実習で学んだ事を無駄にすることなく、時折振り返ることで再確認しながら、業務を行っていく必要があると感じた。

また、私たちが病院実習で、有用であると感じたことやその逆である不満に感じた事を、実際に教育に携わっている先生方にフィードバックできた事もまた大変有意義であった。私自身、一期生として病院実習を終え、充実感や満足

感を得たのと同じにもっとこうの方がよいのではないか、と感じた点もあったためだ。今回、このような場でその時感じたことをお話しできたのは私としてもプラスであったし、それが後輩たちのより良い実習へと繋がるという意味では、教育というものの一端を学ぶことができたと感じた。

今後は、今回のワークショップで学んだ事を日々の業務に活かしつつ、また機会があればこのようなイベントに定期的に参加し、ステップアップしていきたいと感じた。